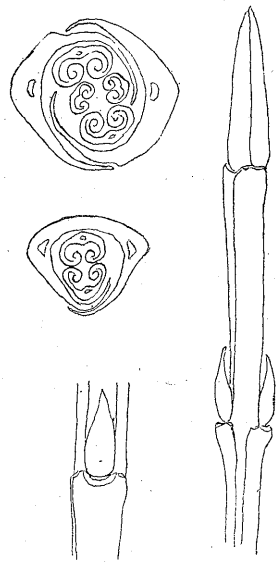
○サハダツの芽（籾山泰一）Yasuichi MOMIYAMA: Winter buds of *Euonymus melanantha.*

サハダツの芽はツリバナの芽のやうな細長い形をしてゐる。しかしそれはツリバナとも異る風變りな特色を具へてゐる。ツリバナの芽は數對の芽鱗より成つてゐるが，サハダツの頂芽はたゞ一對の芽鱗を有するのみであるし，またその側芽はそのあはせめを芽の腹面に向けたたゞ一枚の芽鱗によつて包まれてゐる。もし左右から向きあふ一對の芽鱗が芽の背側におゐて癒合して一枚になつたとすると，この側芽の芽鱗のやうなものになるのであらう。次のやうな事實が見られるのは，あたかもそれを暗示してゐるものゝやうである。まづ，芽鱗と内部の葉（葉は内旋してゐる）との排列の相互關係，第一對の葉は腹背の位置に在つて，そのすぐ下にある芽鱗が本來左右の位置に來るべきことを示す。また芽鱗の頭部に往々左右から向きあふ一對の小突起が見られること，それは芽鱗が癒合しおほせずになほその本來の先端を殘してゐる場合を示す。さらに芽鱗の左右兩側部が維管束を有しやゝ多肉で少しく鈍稜を有するがごときまるみをもつてゐるのに，その背部がかへつて質が薄くてやゝ扁平なこと，それはもとの芽鱗の背部がいまの芽鱗の左右兩側に，またもとの芽鱗の邊緣部がいまの芽鱗の背側にあることを示す。近緣のムラサキマユミ *E. lanceolata* もサハダツと全く同樣な芽をもち，さらに木の習性や花部の形狀においてもこの兩種は共通の特色を具へてゐて *Euonymus* 中において特異な一群を形作る。中井先生の Sect. Melananthus といふのがすなはちそれだが，屋久島のアヲツリバナ（先生の Sect. Paramelananthus）の方はどんな芽をもつてゐるのだらうか。



サハダツの芽　右．頂芽と側芽左上．頂芽の横斷面．一對の芽鱗と二對の葉とを示す．左中．側芽の横斷面．一枚の芽鱗と一對の葉とを示す．左下．側芽を背面より見る．